

外国学図書館LS 紙上講習会(2021年3月)

子どもが大好きな
「仏教のクリスマス」
の歴史を紹介します

かんぶつえ

日本の灌仏会：

子どもの仏教行事になっていった歴史

言語文化研究科 日本語・日本文化専攻D1 楊

かんぶつえ

灌仏会とは…

- **灌仏会とは**：日本では、毎年4月8日に「花まつり」という仏教行事がある。この「花まつり」は釈迦の誕生を祝う行事で、「灌仏会」が正式名称である。
- **灌仏会の由来**：仏教の渡来と共に中国から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。
- **灌仏会の行事**：寺院で誕生仏像に甘茶をかけ、釈迦の誕生を祝う。この甘茶かけ（灌仏）習俗の由来は、釈迦が誕生した時に産湯を使わせるために九つの龍が天上から香水を注いだという伝説が元となっている。



東京護国寺の灌仏会の誕生仏（筆者撮影）

日本の灌仏会の特徴は？

- 中国と日本の灌仏会を比較研究すると、日本の灌仏会の特徴は「子どもとの関わり」という点にあるのではないかと考えられる。

- 子どもに注目する理由は？

子どもと灌仏会の関わりについての研究を行い、日本の灌仏会に子どもが関わるようになった時期や理由、そしてその後の展開を明らかにすることで日本の灌仏会の特徴が見えるのではないかと？



護国寺灌仏会の子どもたち（筆者撮影）

灌仏会と子どもの歴史

- 江戸時代：子どもが灌仏会に参加するようになった。
- 明治時代：キリスト教と対抗するために、灌仏会が「釈尊降誕会」に改名された。さらに、安藤嶺丸の提唱により「花まつり」に改名された。子どもが釈尊降誕会に参加する様子が窺える。
- 大正時代以後：児童劇などの子ども向けの灌仏会のパフォーマンスが登場した。

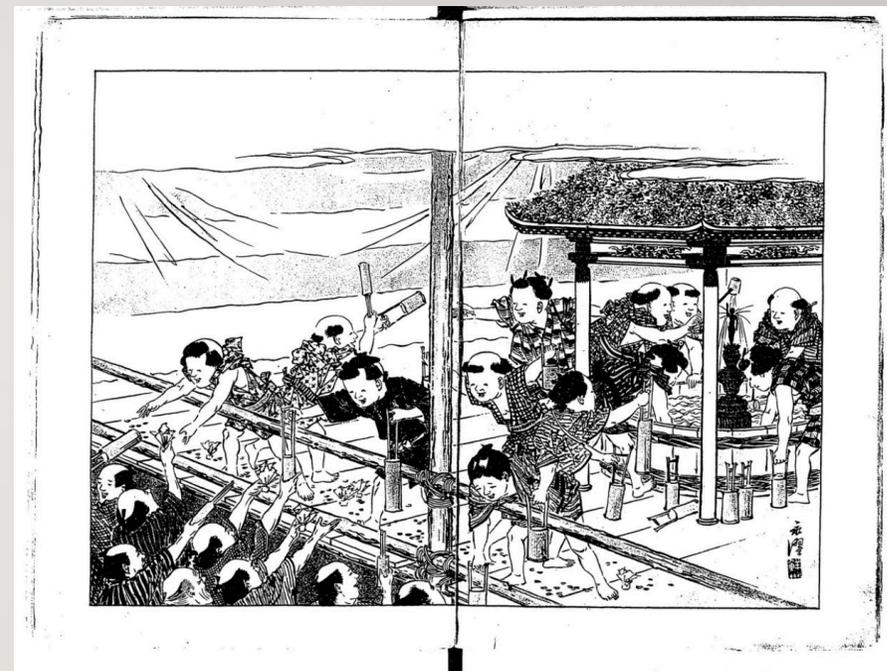
近世：浮世絵から見られる灌仏会の子ども



北尾重政：子どもが屋外で甘茶かけをしている様子。
江戸年中行事図絵」. 東文堂. 1893. p12



鳥居清長「劇童十二気後・四月」：子どもが室内で甘茶かけをする様子。
くもん子ども浮世絵ミュージアム.
URL: https://www.kumon-ukiyo-e.jp/index.php?main_page=product_info&cPath=8_20&products_id=64



吾妻健三郎「The Fourth Month (Shigatsu), from an untitled series of Twelve Months」：子どもが台に乗って大人の代わりに花御堂で灌仏する様子。
URL: <https://ja.ukiyo-e.org/image/mfa/sc207635>

子どもがなぜ灌仏会に関わるようになったのか？

- 子どもと寺院の関係の深まり

中世から生産力の増強や商工業の発展により、文字の需要が高まった結果、寺入りという寺院教育が現れた。結果、子どもが寺院の行事に参加し、時に僧侶たちの愛玩の対象ともなった。（結城陸郎『乱世の子ども』）

- 病の流行と子どもを守ろうとする意識の誕生

江戸時代は、13回の麻疹の流行があり、子どもたちの生命が脅かされた。その影響で、仏教によって子どもを守ろうとする人々の意識が見られるようになる。江戸時代の民間風俗資料である『閩里歳時記』により、灌仏すると子どもの病が治るといふ利益があるとされている。

近代：「花まつり」の創出により子どもの役割

- 明治時代にグレゴリオ暦の導入により、灌仏会が新暦の四月八日に行われるようになり、そして「花まつり」と呼ばれ始めた。そして、「花まつり」にも子どもの姿が見られる。
- 初の「花まつり」（1916年4月10日の『読売新聞』）
 - 少年少女一万、日曜日の日比谷、無邪気な花祭り。
 - 天童行道、喇嘛僧も交り、盛大な花祭り。お釈迦の御豪胆を祝ふ八日の花祭りは午後一時から日比谷公園に於いて行はれた、各派の学生老幼の善男信女六千名睡蓮花を着いて花御堂前に整列する。

子ども向けの灌仏会パフォーマンスの登場

- 大正時代には、子ども向けの灌仏会記念パフォーマンスが現れるようになる。その一つは学校で行われる児童劇である。この児童劇では、灌仏会の利益が甘茶で少女の目が治るという点で表されている。
- 学校で行われた児童劇以外にも、大正時代の寺院では灌仏会の日に子どもを集めて釈迦の誕生を記念するパフォーマンスが行われた。



現代の灌仏会の子ども向けパフォーマンスの起源になるのか？

灌仏会のパフォーマンス：近代から現代へ

- 大阪市：「劇団カップ」に依頼して、毎年の花まつり子ども大会で『ももたろう』『3びきのこぶた』などの演劇を行っている。
- 池田市：本養寺や弘誓寺などの寺院が地元の幼稚園と協同して朝十時頃から五つ以上の人形劇を連続して行う人形劇ラリーを開催している。

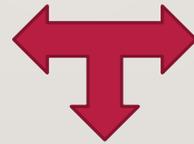


劇団カップの花まつり公演（四天王寺のホームページより）

現代：灌仏会の稚児行列

- 現代の灌仏会で最も注目されているのが稚児行列だろう。「稚児行列」とは、稚児が主役を担って、行列をつくり誕生仏を運ぶという日本の灌仏会独自の巡る行為である。
- 日本の稚児行列は以下の3種類に分けられる：

寺院が主催するタイプ



仏教会が主催するタイプ

民間の人々が行うするタイプ

寺院が主催するタイプ（東京護国寺）

- 稚児行列の様子：

子どもは華やかな服装とメイクをして、親とともに参列する。子どもは参列の時に小さな誕生仏が安置された提灯を持っている。花御堂は6人の檀家の人によって運ばれる。花御堂を運んでいる6人の檀家の人、稚児行列の最後尾について、行列の全員が本殿に入ってから花御堂を宝殿の中心に安置する。



護国寺灌仏会の稚児行列（筆者撮影）

なぜ護国寺が稚児行列を行うのか？

(起源ははっきりとはしないが、) 稚児行列の子どもたちも天童という役目を与えられ、仏教の行道の際に護法を担当する。更に、稚児行列は子どもの健やかな成長を祈るための通過儀礼として位置づけられている。

(2019年6月16日護国寺の僧侶への筆者による聞き取り調査)

仏教会が主催するタイプ（愛知県東浦町）

- 愛知県東浦町緒川の灌仏会の稚児行列は大正時代に生まれ、現代も行われている。子どもが町内の寺院を巡り、甘茶をかけまわる。特に健康祈願などの利益は見られない。



緒川の灌仏会の稚児行列（小川小学校のホームページより）

民間の人々が行うタイプ（埼玉県塚越）

- 毎年の5月に行われる塚越の花まつり（灌仏会）は指定無形民俗文化財として、地元の人々が行なっている。塚越の花まつりの稚児行列は他の稚児行列と異なり、ほとんど大人に頼らず、すべてを子どもが担っている。成長祈願などの利益は見当たらない。



子どもが散華をしながら山道を進む様子
（埼玉県教育委員会の資料より）

稚児行列、一体どういう意味があるのでしょうか？

- 灌仏会を無事に終わらせるために子どもの護法の役割を活かす。
- 通過儀礼として子どもの健やかな成長を祈る。
- 仏教や神道などの伝統行事から稚児行列の要素の取り入れ。 （推測）

他の伝統行事にもよく見られるが、まだ謎が多い…

最後に

- 今回の講習会で、釈迦の誕生祝いである灌仏会が子どもの仏教行事になる歴史を紹介した。江戸時代から子どもが灌仏会に参加するようになった。大正時代に、灌仏会に子ども向けのパフォーマンスが創出された。そして現代においては、稚児行列が新しい灌仏会の代名詞となったことが明らかにされた。
- 今後の課題として、稚児行列が作り出した理由や灌仏会と子どもの関わりの地域差を探りたい。
- 皆さんもぜひ、コロナが収束したら灌仏会に参加してみてくださいね！

